

# 南米のイエズス会ミッシヨン

東京大学教授 増田 義郎



スペイン人のアメリカ大陸侵入の直後、カトリック教会による布教がはじまった。その先頭に立ったのは、修道会の神父たちだった。メキシコのメキシコ国家の征服、ペルーのインカ国家の征服は、一千万以上の原住民にたいする布教の可能性を開き、メキシコ市、リマが、いわゆる「精神の征服」の根拠地となった。

南アメリカ大陸沿岸のほぼ北半分の布教はポルトガルの手によるものでしたが、南半分の布教の中心となったのは、現ブラジルの首都ブラジリアであった。

フランス人は、ラ・プラタ河口から内陸に進出したスペイン人の手で、1537年8月15日に建設された。1550年、そこに大司教座が設けられたが、これはまた、最初のイエズス会士が、ブラジルの北東部のサン・カルズ・パウル・ド・バスターアに上陸した年でもあった。ブラジルからさらに南下して彼らがラ・プラタ地方に到着したのは、それから37年後の1574年であった。

ブラジリアに建てられたのは、グアラニ族であった。イエズス会を栽培し、川の魚をとったり鹿や豚をおこなったりして、おだやかな暮らしを送る。素材は人々であった。イエズス会士たちは彼らの組織的改宗を志し、1609年にふたりのイエズス会士を、フランスからグアラニ地方に送りこんだ。これは現在のブラジルのパラナ州にあたる。彼らはパラナ州と川のほとりにロレートという村を作り、そこに同様のグアラニ族の人々を集めて、キリスト教の教育や、生活の指導

や、生産活動などをおこないはじめた。これが、地方で作られた、イエズス会の最初の伝道村である。英語で言えばミッシヨン、スペイン語では「レドゥカシオン」と言う。

グアラニ一族の人々の中には、スペイン人の大農場に収容されて働使されたり、バスターアと呼ばれる残忍なブラジルの奴隷狩り商人に連れられる者が多かったから、彼らは保護を求め、ようこそ「ミッシヨン」に集まってきた。1630年までの間に、グアラニ地方には、10の伝道村が生まれ、4万人の原住民が、神父たちの指導のもとに平和な生活をたのむようになった。また、同じころ、ペルーのイエズス会士たちの手で、現在のアルゼンチン、ミシオネス州とブラジルのリオ・グランデ・ド・ノールを含む広い地域に、10の伝道村が建設された。さらに、ブラジリア川西のチヤコ地方や、アルゼンチンの「ペンパ」にも布教の武みがおこなわれた。

ブラジリアの伝道村は、イエズス会士の指導のもとに作られた。広場を中心とする整然たる区劃の居住区や、それをとりまく農園、牧場より成り、住民たちは、規律正しい労働と休息を守り、健康な、不安のない生活を送ることができた。宗教行事は彼らの生活の中心であり、全住民がキリスト教徒としてミサに出席し、盛大な祭礼や行列をおこなった。村は村会によって治られ、コレヒエールという長が村会を代表し、その下に多くの役業者が定められた。イエズス会士たちが住民の政治・経済・宗教的指導のいっさいを指導したが、彼らは一村につきふたりでい

の小人数であった。イエズス会伝道村がもっとも大きな成功をおけたのは、その経済活動においてであった。住民たちは、主としてある種のアオカを栽培しただけでなく、タバコ、インディゴ、サトウキビ、綿、ワタなど高価な商品も栽培し、生産したから、莫大な富をたぐわえることができた。また、パラナ川とグアラニ川の間の地域は、牧場がゆたかで、家畜飼育に適していたから、10万頭以上の牛が飼われた。これらの経済活動の結果蓄積された富は、個人が所有することを許された。伝道村全体の共有の財産とされた。このことから、パラグアイの「ミッシヨン」の盛況は、当時のヨーロッパの知識人のつよい関心をひきおこし、トマス・モアの「ユートピア」や、トマス・カンパネラの「太陽の都」にも比べることができるといえる。高く評価する人々も少なくなかった。

織を作り、バスターアの襲撃から自らを守ろうとした。

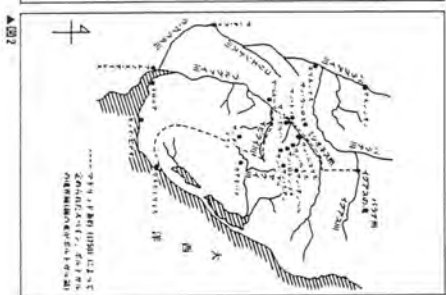
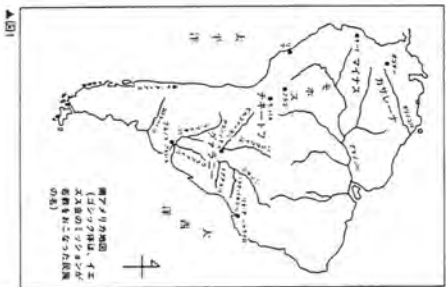
こうして組織されたグアラニ族の軍隊は、自衛のために戦っただけでなく、スペインの行政長官の命のもとに、チヤコ地方のインディオや、ポルトガル人や、ブエノス・アイレスを攻撃してくるイギリス人なども戦った。18世紀のなかば、ブラジルから南下しようとするポルトガル人と、ラ・プラタ地方のスペイン人の間の紛争を解決するため、西葡政府間に外交交渉がおこなわれ、1750年1月18日に、マドリッド条約が締結された。この条約によると、ポルトガルは、ラ・プラタ地方から手をひくかわりに、ウルグアイ川から東にむかって大西洋までの広大な地域をスペインからじぶんの手に引きとることに同意した。この地域には、7つの伝道村に住み、10万頭以上の家畜を持つ約3万のグアラニ族がいた。彼らは村を放棄して、ウルグアイ川の西に移ることを迫られた。現地のイエズス会士は強くこの決定に反対したが、ローマのイエズス会総長がイエズス会士は、パラグアイの事情に暗く、条約の決定にしたがうよう指導を落した。

条約の履行を促進するため、スペイン国王は、ウイヌコンチに圧力をかけ、ルイス・アルミラノをイエズス会の特命全權巡察使に任命させた。アルミラノはイエズス会士たちに、砲門、追放のおとしをかけた。グアラニ一族は退去せよと迫った。しかし、グアラニ一族は抵抗した。出動したスペイン、ポルトガルの連合隊は彼らの強力な反撃にあつてはみ、1754年11月にはいったん休戦協定を結んだが、翌年末に3万の西葡連合軍が組織され、カヤバチの戦いでグアラニ軍を敗走させた。

グアラニ戦争の終結とともに、スペイン、ポルトガル間に争いがおこった。スペインは国王が変り、ラ・プラタ地方を依然として占拠しているポルトガル人に抗議して、マドリッド条約で定められた国境線を放棄することを宣言した。そこで、グアラニ一族は、ウルグアイ川のほとりの伝道村に備えることができた。しかし戦火のほかに、村々はすっかり荒廃していた。3万人のうち餓死したのは、1万4千人にすぎなかった。しかも「ミッシヨン」の運命の終末はつい目の前に迫っていた。というのは、ヨーロッパ中にみまがっていた反イエズス会感情が爆発し、ポルトガル、フランスでつぎつぎに会士への追放が決定された。1767年には、スペインでも追放が決定された。1768年には、ブラジリアのすべての伝道村から、イエズス会士が追放された。したがって、



は国王が変り、ラ・プラタ地方を依然として占拠しているポルトガル人に抗議して、マドリッド条約で定められた国境線を放棄することを宣言した。そこで、グアラニ一族は、ウルグアイ川のほとりの伝道村に備えることができた。しかし戦火のほかに、村々はすっかり荒廃していた。3万人のうち餓死したのは、1万4千人にすぎなかった。しかも「ミッシヨン」の運命の終末はつい目の前に迫っていた。というのは、ヨーロッパ中にみまがっていた反イエズス会感情が爆発し、ポルトガル、フランスでつぎつぎに会士への追放が決定された。1767年には、スペインでも追放が決定された。1768年には、ブラジリアのすべての伝道村から、イエズス会士が追放された。したがって、



## 年表 (増田義郎氏制作)

- 1492 コロンブスのアメリカ到着
- 1535 ペドロ・デ・メンデス・カブラルが、ラ・プラタ地方に植民
- 1537 ブラジリア川の上流にフランスシオン建設
- 1550 ブラジリアのサン・カルズ・パウル・ド・バスターアに最初のイエズス会士到着
- 1575 フランスシオン島のルイス・ド・ボリスと神父、グアラニ一族に布教開始
- 1587 イエズス会士、ラ・プラタ地方に到着
- 1609 カルデナー、マセーラのイエズス会の本拠地の神父、フランスシオンからグアラニ一族地方に向う。聖年(ラ・プラタ川とパラナ川との間の間にロレートという最初の伝道村を築く)
- 1629 ポルトガルの奴隷狩り商人、グアラニ地方に侵入、伝道村を襲う
- 1631 伝道士たちのグアラニ地方離脱
- 1642 ポルトガル奴隷商人を撃退
- 1687 ブラジリア東部に伝道村サン・ニコラス建設
- 1750 マドリッド条約により、ウルグアイ川東部地方がポルトガル領になる
- 1753 グアラニ戦争の開始
- 1758 2月カブラリアの戦い
- 1758 ポルトガルからイエズス会追放
- 1761 国境線交渉が完了
- 1766 3月マドリッドで反イエズス会勅令
- 1767 4月スペインからイエズス会追放
- 1768 ブラジリア伝道村からイエズス会士を追放
- 1773 7月マドリッドでイエズス会を禁止